

# 子どもを呪う言葉・救う言葉

出口 保行

SB 新書 2022. 8.

筆者は犯罪心理学者です。犯罪や非行につながるような、よかれと思った言葉が「呪い」として子どもを導くことがあると述べています。

◆少年院に入った子の保護者・・・「子育ての方針が一致していなかった」が多い

◆親子の信頼関係

方針が頻繁に変わるのは良くない、信頼できない

さらに良くないのは、子どもに黙って方針を勝手に変えること

◆きれいごとの教育

「みんなと仲良く」のようなきれいごとを押しつけると、必ず問題が出る  
実際にはできないので、ギャップに苦しむ

子どもは「自分はダメだ」と思ってしまう

大人ができていなければ不信感にもつながる

◆役割は迷惑

「お姉ちゃんだから、やさしくしなさい」「男だったら泣くな」

本人の性質を無視したこういった言葉が重たい鎖になって自由を奪い、  
耐えきれず非行に走った少年たちを多く見てきた

◆「早くしなさい」

子どもに対して、急がせる言葉を言ってしまう人は多い

しかし子どもは皆、事前予見応力が育っていない

なぜ急がなければならないのか、わからない